

大阪ステーションシティ天体観望会の実施報告 ~ 都市部における天体観望会の可能性 ~

Y15b

齊藤 秀樹（京都大学）、成田 直（川西市立北陵小学校/黄華堂）、有本 淳一（星のソムリエ京都/黄華堂）、藤原 雅二（星のソムリエ京都）、和田 浩一（星のソムリエ京都）、野口 亮（大阪教育大学）、小倉 和幸（大阪教育大学）、他大阪ステーションシティ観望会プロジェクトチーム

都心部では星空を見ることができないと思っている人が多い。そのため山の中にある公開天文台を利用する人も珍しくない。しかし、アクセスが良い都心部であるからこそ、新しい観望会のスタイルを作り上げ実施した。

今回我々は、今関西で話題のスポット「大阪ステーションシティ」で、12月4日（日）に初めて観望会を行った。仕事を他に持ちながら趣味として宇宙と接している星のソムリエ京都の方々、学問対象として日々最新の天文学に接している学生を中心とした、約30人のスタッフでチームを組んで臨んだ。全く異なった背景を持った者たちが、それぞれの強みを出し合うことで多様な広がり期待できる。

まず、「星のソムリエ京都と学生のコラボ」という点で、どちらかに偏ったイベントではなく、大変広い層の人たちを対象として受け入れることができた。これは「アクセスの良さ」という部分ともつながり、参加者にとっても好評であった。また、人が集まるという利点を利用して、施設側に宇宙ニーズがあることを周知させることができた。さらに、望遠鏡ではるか遠方の星を見ることがと、そこで起こっている基礎物理を解説することにより、両方を関連づけることができた。これは自然科学教育的な視点に立つと大変重要なことである。このことより、我々が行った観望会は、「いままでにない形の教育・普及活動」を見いだすことができただろう。本講演では、他の観望会などと比較しながら都心での観望会実施可能性についても考察する。